

穂積俊文氏は谷汲、閨菟溪谷のカエデの花から採集出来たことを報告しておられる（月刊むし、7:32, 1971）。やや大きい（体長3.5mm内外）種であるが県下では両端からの記録があるのみであるがもっと産地は他にもあると考えられる。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕。相生市三濃山（1ex., 3-V-1969, 1ex., 20-V-1973, 1ex., 6-V-1973）。

#### 11. *Kytorhinus sharpianus* Bridwell, 1932 シャープマメゾウムシ

Sharp氏がG. Lewis氏採集になる神戸産1♂（Kobe, June 8, 1881; a single male example.）で新属新種として*Pygobruchus scutellaris*と命名記載された種である（Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII, 97, P. 38, 1886）。その後J. C. Bridwell氏により*Kytorhinus*属に移された。ところが*Kytorhinus*属には*K. scutellaris* Motschulskyなる種があったのでこの種に*K. sharpianus*なる名を与えられたのである（Proc. Ent. Soc. Washigton, XXXIV, P. 106, 1932）。

日本固有種で中條博士は青森県産1♂, 岩手県産1♀を検されると共に図説をしておられる（1937, 1950）。

県下では氷上郡で記録があるが筆者は未採集である。

産地：Kobe〔Sharp, 1886〕。氷上郡篠ヶ峯〔山本, 高橋, 1962〕。

以上兵庫県産のマメゾウムシ11種を記録した。現在の日本産のマメゾウムシ類は23種位（中根, 1972）であるから半数をも記録出来ていないわけである。調査が不充分であることを痛感する。大方同好者の御教示御叱正を頂ければ幸である。

（Ⅷ - 1982）

### ベニシジミの冬季の活動記録

最近の暖冬異変は、蝶の生活にも大きな影響を与えているようである。成虫で越冬する蝶が暖かい日に活動することはよくあるが、筆者は下記のようにベニシジミの冬季における活動を観察しているので報告しておく。

1. 観察場所 洲本市安乎町北谷
2. 観察年月日 ア, 1981年12月28日（数頭） イ, 1983年1月3日（1♂）

なお、1983年1月3日に観察した個体は新鮮な♂で、オニノゲシの花に飛来して約10分間吸蜜していた。

（堀田 久）